

地方創生事業好事例紹介  
**じばにうむ**  
 じばにうむレビュー 第14回

**社員の自由な発想を大切に地域活性化を  
 リードする「お客さまの課題解決パートナー」  
 株式会社明新社**

株式会社明新社  
 所在地：奈良県奈良市南京終町 3 丁目 464 番地  
 代表者：代表取締役社長 乾 昌弘  
 従業員数：37 名（2023 年 4 月現在）  
 URL：https://www.meishin.co.jp/

**印刷会社が新作「かき氷」を共同開発！?**

氷の神様を祀った「氷室神社」があることから、“かき氷の聖地”としても有名で、名だたるかき氷店がしのぎを削る奈良。そんな奈良市餅飯殿（もちいどの）町の土産物店「絵図屋」が、奈良の旧市街地ならまちにあるラーメン店とコラボし、若者視点で新作かき氷を商品開発した。「MOTTE 氷」（モッテ氷）がそれだ。かき氷人気が高じて、予約が必要で値段の高いかき氷も多く、手軽に食べることが難しくなっていることに着目し、若者や観光客でも手に取りやすいサイズ、価格（税込み 500 円）に設定。テイクアウトを想定しておしゃれな紙カップで提供し SNS への投稿を狙った。

この土産物店「絵図屋」を運営しているのが、古都奈良で今から 150 年前 1874 年に創業された印刷会社、株式会社明新社だ。「絵図屋」では 2011 年から



ならキャラクターショップ絵図屋

かき氷の販売を始めているが、明新社代表取締役社長乾 昌弘氏が「Z世代向けの商品を開発できないか」「若者が奈良に来るきっかけになれば」と考え、Z世代のラーメン店の社長に提案し実現したものだ。

明新社は、もちいどのセンター街に年賀状や名刺を印刷する旧社屋を持っていたが、商店街の中にありながら社休日の土日はシャッターを閉めていて、商店街の活性化には逆行していた。更にシャッターに落書きをされてしまい、益々印象が悪くなると悩んでいた時に、営業社員が「遷都 1300 年祭」のマスコット・キャラクター「せんとかん」とその対抗キャラクター「まんとくん」を対にしてシャッターに描いたら商店街の活性化に繋がるのではないかとアイデアを提案してきた。乾社長はすぐに動いた。県に利用承認を取り付け、シャッターに両キャラクターを書き並べたところ、全国ネットのテレビにも取り上げられ大きな話題を作り出した。その後はシャッターを開けていても観光客に訪れてほしいということから、社屋の一部を店舗として改装し、奈良にまつわるキャラクターを販売するショップ「ならキャラクターショップ絵図屋」をオープンさせた。地域産品のネット販売を手掛ける印刷会社はあるが、実店舗を構えて販売事業を行う印刷会社は珍しい。

この「絵図屋」では、「せんとかん」「まんとくん」はもちろん、「ピカチュウ」の作者であるイラストレーターにしだあつこ氏が、病疫退散・人々の平安を祈願し春日大社に奉納したキャラクター、アマビエの「はるちゃん」と白鹿の「はくちゃん」を含め多くのキャラクター

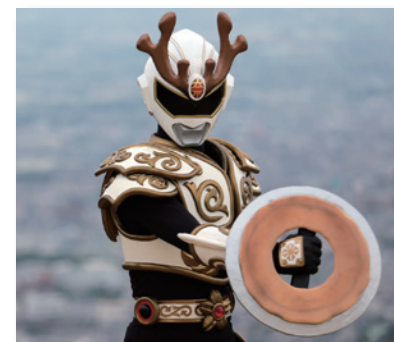
を扱っている。「絵図屋」はキャラクターグッズだけでなく、天理市の漆塗り箸や安堵町の和ろうそく、三郷町の金属工芸品など地域の産品も「NARAMONO」として取り扱う土産物店として存在感を高め、もちいどのセンター街の活性化に大きく貢献している。

**「絵図屋」の成功から企画提案型の事業展開へ**

「絵図屋」の成功体験は、明新社の社員の意識改革につながったと乾社長は述べている。「自分で考えた提案や企画開発したものがお客さまに受け入れられる面白さを社員が実感し、提案型の大切さが意識として浸透してきた」と。

ご当地ヒーロー「YAMATO 超人ナライガー」もそんな社員の自由な発想から誕生したキャラクターだ。奈良を愛し、美しい環境と平和を守るということをコンセプトに、人の心や地球環境を汚染する悪役キャラクターを退治するヒーローという設定で、ストーリー性を持たせたキャラクターに仕上げている。「ナライガー」は、奈良県の地域活性化や観光振興イベント、企業や団体のキャンペーンイベントで、ステージでのショーや撮影会・握手会などに出演。各地でにぎわいを作り出している。

興味深いのは、この「ナライガー」を更に PR するために制作した DVD をクラウドファンディングによる資金調達で制作したことだ。当初の目標金額 100 万円に対して 142 人のサポーターから約 2.5 倍の購入金額が集まった。クラウドファンディングという手法を採ることでキャラクターの露出度を更に



YAMATO 超人ナライガー

アップし、同時に話題性をも醸成した明新社の戦略性が伺える。

**「地域・エリアの課題解決パートナー」へ**

ろうそくの芯の先にできる花の形のかたまり「燈花」は縁起が良いとされる。毎年 8 月奈良公園及びその周辺各所で約 2 万本のろうそくが古都奈良の夜を幻想的に彩るイベント「なら燈花会（とうかえ）」。2023 年 8 月には台風の影響で最終日は中止されたものの 9 日間で約 60 万人もの来場者を数えた。奈良の観光



なら燈花会

業は春秋には賑わうが夏枯れに苦しむ。これを何とか打開できないか?これを解決すべく 1999 年 8 月に初めて開催されたイベント「なら燈花会」、実は乾社長が初代専務理事として根幹を築くことに尽力した。

また、2016 年から奈良市観光協会の会長に就任している乾社長は、地域で作られる旅行商品の企画、お寺や仏像といった「モノ」を観る観光から「コト」を体験する観光へのシフト、滞在時間を延ばし宿泊需要を取り込む商品の企画が大切だと述べている。

「お客さまの課題解決パートナー」から更に大きく広く、奈良の観光、地域活性化をサポートする「地域・エリアの課題解決パートナー」へと進展していく明新社に今後も注目していきたい。